

第5回目（1993年11月6日放送）

【いろはがるた】

なし

【話の内容】

ヒロとホノルルをラインでつないで放送している。ヒロは秋雨である。大久保は10月8日にロサンゼルススの娘の家に4日泊り、一度ヒロに戻り、その1週間後には東京で8日過ごし、10月28日に戻ってきた。東京から帰ってきたホノルル空港で日本航空のスタッフに声を掛けられ、大久保の荷物をハワイ航空の場所まで持って行ってもらったが、その人はこの番組を聞いている人だった。

昔は銀座や新橋のナイトクラブへ遊びに出かけたものだが、今回は、滞在した都ホテルでの話し合い、説明会など仕事ばかりであった。国立国会図書館の人たちも5人でわざわざホテルに来てくれ、翌日は明治村東京事務所の方や、市ヶ谷の私学会館からもホテルまで来てくれた。また、大木浩参議院議員（元ハワイ総領事）も来てくれた。ホテルから出ずに、用事が終わった。

この11月、ハワイ島出身のマーガレット・小田¹博士が瑞宝小綬章の叙勲を受けた。父親は広島からの移民である栗栖悟である。栗栖も勲章をもらっており、親子そろっての叙勲者となった。奥山（友雄）さん²も叙勲された。山梨からの移民であった父奥山朝秀も叙勲していることから、親子そろっての叙勲者である。亡くなった両親が喜んでいるだろう。さらにハワイ島からは、元年者の桑田松五郎の孫である元ハワイ市長（郡長）トマス・クック³も叙勲された。この桑田松五郎は日本人からもハワイアンからもウミウミ⁴マツと呼ばれていた。彼はハワイに来る前に横浜で法衣などを扱う仕立屋をしていた。その後、3年の契約でハワイのサトウキビプランテーションに来たが、3年の年季奉公が明けるとすぐにマウイ島で仕立屋を始めた。ハワイ生活14年目にハワイ女性と結婚し、トマス・クックの母となるキミをもうけた。キミはプランテーションの測量技師のクックと結婚した。また、ヒロのユニオンスクールの先生をしていた。

東京にいた間、ハワイ島の姉妹都市である伊豆大島の市長が来た。椿の種を贈る

¹Dr. Margaret Y. Oda. ハワイ島ワイレア出身の教育者。

²Tomoo “Tom” Okuyama. ハワイ島ヒロにあるワイアケアで始めた肉屋からスーパーマーケット経営まで成功したビジネスマン。

³ Thomas “Lofty” Cook. 1960年のチリ地震の影響により、ヒロは10.5mの津波の被害を受けた。これを背景に、クックはハワイ市長として日米の津波警報システムの設立に尽力した。

⁴ ‘Umi’umi. ハワイ語で髭の意。

ので各家庭で咲かせて欲しいとのことであった。大久保は 2 世の古川千代美の歌う「椿咲く島」のレコードを大島に贈ることを考えている。

【曲】

「椿咲く島」（歌：古川千代美 演奏：松竹オーケストラ）

【サブジェクトタグ】

元年者 日本航空 有力者 コミュニティ